

別紙1

< 狩猟に関する事業・キャッチ&ボディコピー >

還るための、狩りと祈り。 奪うのではない。預かるのだ。

狩猟の始まりは数百万年前と言われている。

人間は狩猟を生業の基盤として、
さまざまな命をいただいて生きてきた。
時代を経て、人間は農業をはじめた。畜産もはじめた。
山を切り開き、棲家と道路を作った。
いつのまにか地球を自らの所有物とし、
「わがもの顔」で生息領域を広げた。
多くの場合、自然の理（ことわり）に無頓着なままに。

いまさら 100 パーセントもと通りの
自然との関係には戻れない。
狩猟が生業だったころの人間社会にも戻れない。

でも、できることはあるはずだ。

野生に触れ、自分の「生」の理由を思い出すこと。
残酷でも、慈しみ深い、生命との対話をすること。
自然の理（ことわり）、生命の循環を改めて考えること。

「人間本位」から「共生」へ。
狩猟は「共生」の、最前線にして最後の砦なのだ。